

中川根南部小児童が“お国自慢”

7/19

山と川の恵みに感謝する気持ちを劇で表現

南アルプス国立公園指定50周年記念事業として「こども未来フォーラム」が静岡市で開催され、中川根南部小学校4・5年生9人が大井川の魅力を発表しました。

「南アルプスはすげ〜ぞ大賞ジャパンカップ」と題し、静岡・長野・山梨3県の5つの学校・団体が、それぞれの“お国自慢”を歌や踊り、劇で披露しました。南部小児童は、水生生物調査の学習を通して、山と川の恵みに感謝し、未来に向け自然を大切にしていきたいというメッセージを劇で表現し、観客から大きな拍手が送られました。



鈴木町長(後列中央)も劇の内容を大絶賛

8/2

川根茶の魅力を知り、広める

川根茶について幅広い観点から学ぶ「川根茶塾」、本年度の開講式を開催



年間5回の講義が予定され、意気込みを宣誓した長嶋さん

「川根お茶街道推進協議会」(会長・鈴木町長)は、山村開発センターにて本年度の「川根茶塾」の開講式を開催し、塾生17人が出席しました。

塾長の鈴木町長が「川根茶の魅力を感じてほしい」と呼び掛けると、代表して長嶋得子さん(田野口=75歳)が「川根茶のことを少しでも多く学びたい」と意気込みを語りました。

開講式終了後には、初回として静岡産業大学の堀川知廣教授による記念講演が行なわれ、国内外におけるお茶の生産や販売、消費の様子や消費者の嗜好の変化について学びました。

「備えあれば憂いなし」

7/28

“ママ目線”で災害に備えるアドバイスを伝授

社会福祉協議会主催の平成26年度福祉講座「ママの目線で考えた家族防災講座」が山村開発センター和室で開催され、11組約20人が参加しました。講師はNPO法人静岡県災害支援隊の市東みはるさんが務めました。

東日本大震災の実情を踏まえ、震災時の必需品をそろえた防災バックや備蓄品、保存食についてアドバイスしました。市東さんは「生きる力を備えるため、家族でアウトドア活動を体験しておくことで災害時に役に立つ」と話し、いざという時に判断する力を養う大切さを説きました。



いざという時に役立つ情報を紹介する市東さん

お茶の持つ作用を解き明かす 8/2

町「健康長寿のまちづくり事業」の一環、緑茶服用習慣研究の中間報告会を開催

昨年9月から町民約100人の協力で緑茶の生活習慣病改善効果に関する研究を行っている県立総合病院臨床医学研究センターの島田俊夫医師が、文化会館で中間報告会を実施しました。

この研究は、1年間、粉末にした本町産の無農薬緑茶を毎食後に服用し、数カ月おきの血液検査などで健康状態の改善効果を調べるものです。島田医師は「12月中旬の最終報告で科学的にしっかりとしたデータが出そうのため、それまでは断言はできないが、項目によっては改善効果が認められる」と手応えを示しました。



約100人の聴講者に研究の進捗状況を説明する島田医師

7/14

「たい」に祈りを込めて大井川へ



「たい」は皆が見守る中、大井川に流して奉納されました

恒例の町指定無形民俗文化財「平谷の流したい」

大井川に「たい」と呼ばれるたいまつを流して1年間の無災害を祈願する伝統行事「平谷の流したい」が行なわれ、区民や中川根南部小の児童ら約80人が参加しました。

材料を持ち寄った区民らは、麦わらを束ねて作った直径3センチほどの台座の上に青竹の先端を短冊状に裂いたたいまつを乗せて組み立て、無災害を祈願し大井川に流して奉納しました。

金澤和久瀬平区長(58歳)は「高齢化が進み、伝統を守っていくことは大変だが、区民の力を合わせて継承していきたい」と話しました。

芹澤慎一郎さんが「発明賞」を受賞 7/14

全国発明大賞は日本の産業振興を目的に大正8年に創設

公益社団法人発明協会主催の「平成26年度全国発明表彰」表彰式が常陸宮同妃両殿下ご臨席のもと、東京都で開催されました。全国で合計49件100人が表彰を受け、「ヒト型セラミドを配合した保湿に優れる機能性化粧品の発明」が発明賞に輝き、発明者4人の一人、元富士フィルム(株)研究員の芹澤慎一郎さん(小長井=62歳)が役場へ受賞の報告に訪れました。

芹澤さんは「この発明はフィルムの技術を活用したもの。技術的には大変難しく、苦労したが努力が報われた」と笑顔で話しました。



受賞報告に森副町長と中田議長が出席しました